

久留米城(笹原城, 篠山城, 篠原城, 久留目城, 来目城, 雨城)

(県史跡, 続百名城)(久留米市篠山町)(篠山神社)

久留米城（くるめじょう）は、筑後国御井郡（現在の福岡県久留米市篠山町）にあった日本の城
概要

久留米城は久留米市街の北西に位置し、筑後川が西から南へと大きく蛇行し宝満川と合流する左岸地点にあった丘の上に築かれた。江戸時代には久留米藩の藩庁が置かれ、摂津有馬氏の居城であった。明治時代初頭に建物は撤去され、現在は本丸に有馬記念館と篠山神社が建てられ、二の丸・三ノ丸はブリヂストン久留米工場の敷地となり、外郭は市街地となっている。

沿革

室町時代後期の永正年間（1504年 - 1521年）にこの地の土豪が篠原城と称した砦程度のものを築いたのが始まりと言われる。天文年間（1532年 - 1555年）には御井郡司の某が修築したとの記録がある。この時代は豊後国の大友宗麟（筑後守護でもあった）と肥前国の龍造寺隆信が争っており、この地は双方の勢力が拮抗する場所で度々城主が入れ替わった。

中世（豊臣時代）

天正15年（1587年）豊臣秀吉が九州を平定すると、大友宗麟の娘婿である毛利秀包（羽柴久留米侍従）が13万石で筑後久留米に封じられ堀を掘削し石垣を積み天守を置くなど、織豊期城郭への大改築を行った。秀包は慶長5年（1600年）関ヶ原の戦いで西軍についたため戦後改易となった。

近世（江戸時代）

筑後国には田中吉政が32万5千石で封じられ柳川城を本城とした。久留米城は柳川城の支城とし二男の吉信を城主とした。元和6年（1620年）吉政の子、忠政は嗣子なく没し筑後柳川藩田中氏は改易となった。かわって元和7年（1621年）、丹波国福知山城主有馬豊氏が21万石で封じられた（柳川には立花氏11万5千石）。幕府の御墨付きを獲た豊氏は隣国筑前黒田家の助力も得、筑後の要の城に相応しく、大規模に城を拡張した。以後、明治維新まで久留米は西国の大藩である有馬氏の居城となった。豊氏は田中氏が途中であった城普請を再開し、寛永8年（1631年）筑前国福岡城主黒田長政の指導により筑前堀を完成させ、慶安2年（1649年）から4年掛かりで外郭部を構築し城下町を整備した。元禄4年（1691年）4代頼元の代になって漸く城郭が完成した。

明治4年（1871年）廃藩置県により廃城となり、明治7年（1874年）廃城令によって廃城処分となり建造物は日田の町民が落札、大半の城の建造物は解体された。明治10年（1877年）本丸御殿跡地に篠山神社が建造された。

昭和49年（1974年）には当時の久留米市長近見敏之を中心に巽櫓の再建が計画されたが実現していない。

昭和58年（1983年）3月19日、城跡は福岡県の県史跡に指定された。

形式と構造

縄張（基本配置）

北西側の筑後川を天然の堀とし、比高差約15メートルの川沿いの丘陵の頭頂部を平坦にして本丸が築かれ、その南側に二の丸、三の丸、外郭（四の丸）が配された連郭式平山城であった。天守はなく、本丸に二重の多聞櫓で連結された三重櫓が各隅に7棟配されていた。

本丸

本丸の規模は東西約96.4メートル、南北約156.4メートル。石垣の高さは約14メートルから15メートル。本丸は中央に本丸御殿、それを取り囲むように巽櫓、艮櫓、乾櫓、坤櫓、西下櫓、太鼓櫓、月見櫓の7棟

の櫓が上げられ、ほぼすべてが多門櫓で連結されていた。乾櫓とその周囲の北側の多聞櫓櫓台については石垣を失い、艮櫓も櫓台石垣の一部を欠損しているが、そのほかの櫓跡では櫓台石垣が現存する。

本丸御殿

久留米城の中心となった建物で、内部では歴代藩主が政務を執っていた。北西側に大井戸が置かれている。明治7年（1874年）廃城令によって廃城処分となり本丸御殿も解体された。その後、明治10年（1877年）本丸御殿跡地に篠山神社が建造された。本丸の中心部に位置しており、現在は篠山神社の本殿・拝殿が置かれている。

大井戸（おおいど）

固い岩盤をくり抜いて造られた井戸で本丸御殿の北西側にある。本丸には他にも2つの井戸が存在したが、1つは有馬記念館前に現存する。現在は落下危険防止のために覆いや金網が張られている。

本丸南面

この面は、明治初頭に撮影された古写真によって櫓の姿が判明するが、現存する写真は加筆修整により、細部については詳らかではない。

冠木御門（かぶきごもん）

本丸の大手虎口にあった櫓形門。虎口は内櫓形をなしており、土橋を渡って南正面に櫓形門形式で言うところの「二の門」である冠木門（平門）、西に一の門である櫓門が開かれていた。現在は冠木門土塀石垣と櫓門櫓台石垣が現存しているが、門礎石などは敷地内にある有馬会館などへの自動車の乗り入れのため、車道としてアスファルト舗装されているため確認できない状態となっている。

坤櫓（ひつじさるやぐら）

本丸南西隅（未申の方角）に上げられていた三重櫓。現在は櫓台石垣が残り、その上に有馬記念館関連の建物が建てられている。

太鼓櫓（たいこやぐら）

本丸南に上げられていた三重櫓。冠木御門の西にあった。現在は櫓台石垣が残っている。

巽櫓（たつみやぐら）

本丸南東隅（辰巳の方角）に上げられていた層塔型の三重櫓。城内で最も規模が大きかったため、天守の代用となっていた。元和6年（1620年）頃に建てられ^[1]、平面寸法は約12.7メートル×約14.5メートルあった。現在は櫓台石垣が現存し、石碑が建てられている。昭和49年（1974年）には当時の久留米市長であった近見敏之を中心に巽櫓の再建が計画されたが、実現には至っていない。

本丸東面

東御門（ひがしごもん）

本丸東側にあった門。月見櫓に付属していたため別名を「月見櫓御門」ともいう。門の形式については、『日本古城絵図』に収録されている久留米城絵図によれば、東御門に当たる部分に「多門」と書込みがある^[2]。現在は門礎石の一部が現存している。

月見櫓（つきみやぐら）

本丸東に上げられた三重櫓。東御門（月見櫓御門）のすぐ東側の上に位置しており、直下に蜜柑丸がある。現在は櫓台石垣が現存する。

艮櫓（うしとらやぐら）

本丸北東（丑寅の方角）に上げられていた三重櫓。現在は石垣が現存している。

蜜柑丸（みかんまる）

本丸東側にあった腰郭。蜜柑の木が植えられていたことから「蜜柑丸」と呼ばれていた。現在は車道となり、一部が篠山神社の駐車場として利用されている。

本丸西面

筑後川沿いに当たる。有馬記念館や社務所、東郷記念館（東京麹町にあった東郷平八郎邸の書斎を移築したもの）がある。

水手御門（みずのてごもん）

本丸西側にあった門。現在は、篠山神社社務所の敷地となっている。門の建物は廃城後久留米市草野町の寿本寺の門として移築現存する。

乾櫓（いぬいやぐら）

本丸北西（戌亥の方角）に上げられていた三重櫓。北側の多聞櫓跡とともに櫓台石垣が現存しない。

西下櫓（にししたやぐら）

本丸西に上げられていた三重櫓。水手御門に続く多聞と連結していた。現在は櫓台石垣が残っている。

二の丸

本丸の南に存在した、周囲を堀に囲まれた郭。藩主の御殿などが置かれていた。現在はブリヂストン久留米工場の敷地の一部となっている。

三の丸

二の丸の南に存在した、周囲を堀に囲まれた方型の郭。御蔵屋敷、御蔵番屋敷、久留米藩の5名の家老の屋敷が置かれていた。現在はブリヂストン久留米工場の敷地の一部となっている。

外郭（四の丸）

城内で最も広く、三の丸の南に存在した郭。久留米藩の上級の家臣団の屋敷や御郡支配方、御普請方などの藩役所が多く設けられていた。他にも明善堂などの藩校や祇園社などが置かれていた。現在は市役所などが置かれ、久留米市の政治の中心部になっている。

大手門（おおてもん）

外郭の南西に置かれていた、久留米城内最大の門。亀屋町を結んでいたことから亀屋町口橋とも呼ばれていた。久留米城に出入りする門の一つ。城内の門の中で最も格式が高く、藩主の参勤交代交代の際によくこの門が使用されたという。

狩塚橋（かりづかばし）

外郭の南東に置かれていた門。祇園社で行われていた祇園会の際に使用される山車が出入りしていた。

祇園社（ぎおんしゃ）

外郭の中心部より少し東側にある神社。貞観17年（875年）に創建された真言宗の寺院。慶応4年（1868年）に神仏分離令により祇園神社となり、現在に至る。毎年6月に行われた祇園会は久留米城の城下町最大の祭りであった。

明善堂（めいぜんどう）

外郭の南に存在した藩校。大手門のすぐ北西側に存在した。第8代久留米藩主有馬頼貴が天明3年（1783年）に学問所（藩校）を開いたのが始まりである。天明7年（1787年）には学問所は「修道館」と名付けられたが、寛政6年（1794年）に焼失した。寛政8年（1796年）、藩校を再建し新たに「明善堂」と名付けられた。以後、今日の福岡県立明善高等学校に至っている。幕末の勤王家・真木保臣は当藩校の出身である。

御使者屋（おししゃや）

狩塚橋の対岸に存在した久留米藩の迎賓館。天保2年（1831年）に片原町に建設され、明治時代に入ると三潞県役所の庁舎などに使用され、昭和4年（1929年）まで久留米市役所に利用された。御使者屋を囲んでいた築地塀や玄関口が保存されている。

遺構・現存建造物

遺構は本丸の月見櫓や巽櫓、坤櫓などの石垣や水堀の一部、裁判所の隣に外郭（四の丸）の堀跡と土塁が現存している。明治時代初頭に城の建造物の大半は解体されたが、本丸の水手御門が久留米市草野町草野の寿本寺山門として移築現存している。

以前まで二の丸の乾門（二の門）が JR 久留米駅の西側にある京町の日輪寺山門として移築現存していたが、平成元年（1989 年）に老朽化により解体されてしまい、後に同じ所に再建された。

